

公益社団法人中部日本書道会 一宮支部報

公益社団法人
中部日本書道会
一宮支部発行
編集
支部編集部

光陰矢の如し

一宮支部創立70周年に向けて

支部長 村上史麗



昨年令和五年一月の支部集會におきまして支部長に推挙いただきから早一年が経過いたしました。

「光陰矢の如し」諺にもありますようにあつという間に時は過ぎ去りました。支部長として右も左もわからぬまま全力で駆け抜けてきました。令和五年度の行事が滞りなく終了することが出来大変安堵しています。

この一年間、前支部長の川浦碧濤先生始め相談役の先生方には多大なる御指導御支援をいただき心より御礼申し上げます。又、部長会メンバーの先生方や学生展・支部展等あらゆる場面でご協力下さいました支部員の皆様方にも感謝の気持ち一杯でございます。

宮支部展作品集を拝見しますと、昭和二十九年五月十六日に一宮支部創立と記録されています。初代支部長森一峰先生より七十年にわたり多くの先生方の献身的なご努力により脈々と一宮支部の歴史や伝統が引き継がれてきました。



日時 令和六年二月二十五日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
講師 横井宏軒 先生

令和五年度 書道講演会 隷書を学ぶ

篆書・隷書・草書・行書・楷書の変遷
— 楷書五書体の変遷 —
連盟福会長 小島瑞月

本年度は講師に公益社団法人中部日本書道会副理事長の横井宏軒先生をお迎えして「隷書を学ぶ」—篆書・隷書・草書・行書・楷書の五書体の変遷—と題して講演会が開催されました。

先生は20ページにも及ぶ資料を大変お忙しい中、私達聴講生の為にご準備してくださいました。漢字は書体により篆書・

令和五年度 支部集會

支部次長 吉田桃花

日時 令和六年二月二十五日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター



令和五年度の支部集會は、新型コロナウイルス感染症に加えて季節性インフルエンザの流行の中、本部より副理事長岡野楠亭先生・同じく副理事長で事務局局長を兼任されている横井宏軒先生にご臨席を賜り、開催しました。

が報告され集會の成立が承認されました。本年度はコロナ禍前の読上げスタイルに戻して、行事報告・会計報告・行事計画案が担当者より順次、報告されました。質疑応答を終え、議事は全て満場一致で、承認されました。

の活躍が顕著になりました。女性ならではの観点で新しい時代と伝統の融合した支部を築いてほしい。また令和六年度は、本部創立90周年、支部創立70周年、共に記念行事も企画されています。

完成され、点画が明確であり、起筆は露鋒・藏鋒にて側筆が多く、横画は右上がりである。

今、私達は古人達により生まれた五書体をいろいろ学ばせていただき、幸せを感じずにはいられません。



聴講者90名 (内一般聴講者9名)

第七十八回一宮市芸術祭参加

第68回一宮支部展

支部次長 村田光 終

▼会期 令和五年十一月二十五日(土)～二十六日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター



天候に恵まれ、第68回一宮支部展が十一月二十五日～二十六日の両日、開催されました。一六四名の支部先生方からご出品頂き、本部からは、理事長の伊藤仙游先生、副理事長の岡野楠亭先生、同加藤裕先生、同松下英風先生、同横井宏軒先生の賛助出品を賜りました。フューチャー

ズでは団体出品として、弥天塾、麗筆会の二団体。個人出品は、村上支部長社中から二名、横井静嘉先生社中から一名のご出品を頂き、各先生方のご尽力ご協力に心より感謝申し上げます。本年度から作品の搬入搬出作業はコロナ禍以前のように出品者様全員参加のお願いとなりました。先生方の手際良いご協力のお蔭でスムーズに作業が運び、六つの展示室は素晴らしい多様な作風に満たされ、ご来場者様におかれましては書芸術と触れ合える良き機会のも場であつたことと思いま

また二十六日には、昨年度より再開されましたギャラリートークも行うことが出来、本年度は相談役の林大樹先生がお話をしてくださいました。漢字書体の変遷から始まり、行書や草書体の用筆の母体は漢代の隸書であること、さらにその隸書体の具体的な用筆(逆入平出法)についてご教示いただきました。時代を経て王羲之や顔真卿の用筆並びに表現法の違いにも触れられ、私たちの作品制作や指導法に活かせる内容でした。現代に至っては、関東(碑学派)、関西(帖学派)主団体の書風の相対的な方向性について、また翠軒流の用筆観点

等、先人の楽しいエピソードも交えて、とても興味深い内容で、多数の聴講者様も真剣に聞き入っていました。書面では、大まかにしか記せず申し訳なく思っておりますが、このような有意義な一時を過ごすことができました。相談役の先生方には、来年度もご教示の程宜しくお願い申し上げます。
今回の69回展は、支部創立70周年の記念展と同時間催となり、記念企画の展示が加わる予定となっております。一宮支部の益々の発展を祈念すると共に、ご出品ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いちのみやアートアニュアル2023

▼会期 令和六年十二月二日(土)～十七日(日)
▼会場 一宮市博物館

依頼出品

- 安藤蘇道 伊藤曉嶺
伊藤玄圃 岩田潤流
亀山雪峰 川浦碧濤
木戸竹葉 小島瑞月
近藤芳玉 高松秀翠
高山紅雪 武山翠屋
田代春苑 富田榮楽
中村曾南 則武 穹
橋本成良 林 大樹
牧 仙岳 村上史麗
村田光柊 森 隆城
山田杏華 吉田桃花

鷺野紫篁 渡辺月潭

第81回一宮市美術展市長賞受賞者の三名の作品も展示されました。

奨励賞

- 小林修堂 志知隆道
鈴木悠水 高桑愛降
内藤春翠 花木寛城
平野桃瑤 山本瑤華
安達寿扇 安福展翠
稲葉碧陽 井上紅鳳
梶木光雪 小島華扇
里中紅華 陣内華苑
丹羽碧洋 野村小鏡
原 香風 外村幹秀
松永翠峻 村上桂峻
村瀬紫苑 山田紅照
山田弘子 脇田采藍
渡辺静扇

第81回一宮市美術展

▼会期 令和五年十一月十六日(木)～十九日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター

審査員

- 安藤滴水 伊藤仙游
林 大樹 川浦碧濤
森 隆城 近藤芳玉
小島瑞月 吉田桃花

依頼出品

- 亀山雪峰 武山翠屋
木戸竹葉 林 大樹
則竹 穹 岩田潤流
川浦碧濤 安藤蘇道
伊藤曉嶺 伊藤玄圃
小島瑞月 近藤芳玉
高松秀翠 田代春苑
富田榮楽 村上史麗
村田光柊 森 隆城

市長賞

- 後藤柳月 前野樹風
内出紅華 倉橋澄雨
近藤由果

教育委員会賞

- 後藤美川 高松彩月

美術展賞

- 安藤静歩 飯田泰郷
伊藤彩秀 鵜飼玲舟
馬場春欄 小笠原澄遠
小川香風 河合晃城

公益社団法人 中部日本書道会一宮支部

第51回 学生書道展

支部次長 牧 仙 岳

▼会期 令和五年十一月二十五日(土)～二十六日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター

展覧会当日は、気温が下がるとの予報に反し、それほど冷え込みもなく天候に恵まれた両日でした。
開場前、すでにロビーには多くの子どもたち。十分程のフライング開場となり、本会の盛況を予感！

コロナのため中断していた展覧会場での賞状・賞品の引き換え、イベントのカレンダー書き、共に三年ぶりの再開。特にカレンダー書きにおいては、コロナ前

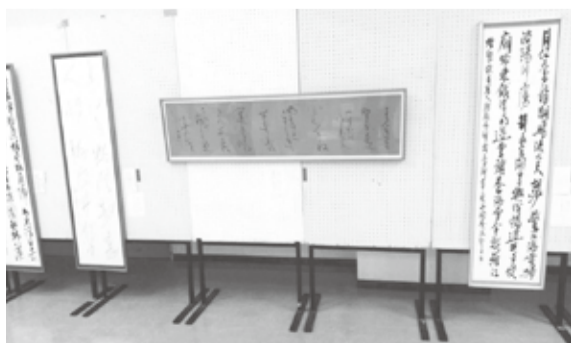
待ってましたとばかりにカレンダー書きに取り組み子どもたち。また、賞状・賞品を授与され、授与の折には各部の先生方全員での拍手……。満面の笑みを浮かべる子どもたち。予感どおりの大盛況でした。
本年度の展覧会は、支部長の村上史麗先生、また学

生展担当の私も共に新任ゆえ、手探り状態で準備から開催に至るまで進めてまいりました。事無く終えることが出来るか常に不安の連続でした。しかし、役員の方々の先生、出品の諸先生、協賛いただきました関係各位のご協力を賜り、特に大きなトラブルもなく乗り切ることが出来ました。深く感謝申し上げます。
本年は、残念なことに昨年より数十点減の出品でした。来年度は、役員一同、知恵を絞って、少しでも多くの出品を頂ける様な魅力ある学生展にしていきたいと思っております。

何卒、関係各位のより一層のご協力ご支援よろしくお願ひ申し上げます。



総出品点数 二、九四四点
特別出品 三九点
個人賞(知事賞、菊花賞) 一、一六六點



おりもの感謝祭一宮七夕まつり 第50回記念学生書道展

一宮書道連盟会長 高松 秀翠

▼会期 令和五年七月八日(土)〜九日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター

一宮七夕まつり第50回記念学生書道展が七月八日・九日の両日に一宮スポーツ文化センターで開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染症も二類から五類に移行し、色々な規制が緩和され四年前と同様の展覧会に戻すことができました。

賞状や賞品の引き換えや、50回記念の団扇書きイベントも行い、コロナ禍にはない賑わいぶりでした。賞状を持って自分の作品

の前で記念写真を撮ったり、イベントの団扇書きでは、各々のアイデアで楽しくすばらしい団扇を書き上げていました。いまだコロナウイルス感染症が完全に終息したわけではありませんが、細心の注意を払って一步一步、前進していきたいと思えます。本展覧会の開催に際し、ご協力頂きました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。



総出品点数 二、九五六
特別出品 三二点
知事賞／奨励賞 八六八点
七夕賞 三六一点
記念賞 一、六九五点

◆一宮七夕まつり 学生書道展の本町 通り展示

第50回記念学生書道展に展示した招待から服織神社賞までを一宮七夕まつり期間中、無料休憩所になっていたオリエナスに展示しました。また、

各塾で工夫を凝らして作製して頂いた作品三十五点を商店街のアーケード内に展示させて頂きました。七夕まつりに来ていた一般の方々にも、書道作品に興味を持って見ていただけただことに感謝を受けました。



一宮書道連盟主催 第29回 選抜作品展

▼会期 令和五年七月八日(土)〜九日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター

おりもの感謝祭一宮七夕まつりに協賛し、第29回選抜作品展が開催されました。出品者は当連盟を代表する役員の先生及び、併催の「七夕学生書道展」にご出品の先生方を選抜させて頂きました。楽しくユニークな小作品の展覧会でした。(出品者)

- 亀山雪峰 武山翠屋
- 木戸竹葉 林大樹
- 則武穹 岩田潤流
- 川浦碧濤 伊藤玄圃
- 鷺野紫篁 安藤蘇道
- 伊藤暁嶺 近藤芳玉
- 田代春苑 富田栄楽
- 中村曾南 森隆城

- 山田杏華 渡辺月潭
- 村上史麗 高松秀翠
- 吉田桃花 村田光柊
- 牧仙岳 小島瑞月
- 倉橋高堂 高山紅雪
- 関戸海越 岩田展穂
- 横井静嘉 村上桂峻
- 太田紫翠 田中石雲
- 藤木秀華 牧野瑞葉
- 市川嶺華 伊藤美泉
- 加地孤握 倉橋華仙
- 栗本珠路 中村華風
- 戸松紅翠 藤田寒樹
- 松田樹幹 溝口純華
- 美濃羽城開 八木彩花
- 浅野揺草 阿部舟花
- 荒川白扇 伊藤紫鳳

- 岩崎翠風 岩田佳川
- 大塚菖苑 大西影慕
- 小川香風 尾中杉得
- 寛麗佳 春日井栄嘉
- 可児長望 河村抱山
- 川本青柊 國島英華
- 小出和香 後藤蘇月
- 後藤柳月 酒井光華
- 酒井淑婉 桜井光雲
- 陣内華苑 内藤春翠
- 長崎成秀 中村彩香
- 中村美舟 中山芳泉
- 西垣美茜 西村松花
- 丹羽碧洋 野村怜光
- 野田佳楊 橋本佳静
- 橋本成良 服部稲華
- 原香風 廣川蒼岳
- 藤野春竹 見神恵峰
- 宮代翠霄 村瀬彩光
- 村瀬紫苑 森翠葉
- 森雪華 山口如泉
- 山田紅照 山本瑤華
- 吉田香翠 吉田美影
- 脇田遊油 渡辺湖風
- 渡邊照花

令和五年度 一宮支部講習会

―豊橋筆とストラップ作り体験―

事業部長 倉橋 高堂

▼日時 令和五年十月二十九日(日)
▼会場 一宮スポーツ文化センター

今年豊橋筆職人で、伝統工芸士の山崎巨弘様、渡辺一明様、山崎様の娘さんの由紀子様、亜紀様にお手伝いを頂き、筆の製造工程の見学とストラップ作りに分かれての講習となりました。豊橋筆は、広島筆と並び

日本の筆の産地で、特に高級筆においては、日本一の生産数を誇っています。ルーツは江戸時代に遡りますが、吉田藩の城下町であった豊橋は、山が多く筆の材料となるタヌキ、イタチの毛が豊富に手に入りました。筆作りは、武士の内職として

始まり、また、東海道の面していた為、行商の容易さもあり、次第に発展してきました。今回は、全工程の内、選別から尾締めまでを体験していただきました。渡辺様の年令を感じさせない作業スピードと丁寧な職人技、また、語りにも引き込まれ、興味深く拝見しました。ストラップ作りでは、皆さんそれぞれに好みの色とどりのストラップが出来上がり、「かわいらしい！お土産ができた!!」との喜びの声も聞かれました。伝統工



芸に触れることが出来、大変貴重な時間を過ごさせて頂き嬉しく思いました。今回の参加者は、六十四名で会員外からも、二十四名の方が参加して頂きました。ありがとうございます。

ご入選・ご入賞
おめでとうございます

改組新第10回 日展
入選 近藤 芳玉
田中 石雲

第39回
読売書法展
特選 近藤 由果

ご紹介
令和五年度新入会員

- 青野翠煙 今枝翠榮
- 今川流秀 小西萩花
- 小松美子 佐久間清月
- 佐藤幽水 佐藤瑤月
- 谷口夏鈴 則竹彩園
- 早川楨城 山家絵美
- 山田弘子 山田涼泉

訃報

本号発行までに左記の方がご逝去されました。心から哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。

- (逝去順)
- 評議員 近藤芳玉 先生
- 御尊父様
- 監事 村上史麗 先生
- 御母堂様
- 評議員 高松彩月 先生
- 御母堂様
- 名誉会長 神田真秋 様
- 御令室様
- 正会員 小澤松煙 先生
- 顧問 三神榮軒 先生

